

NEWS23 週刊報告 ダイジェスト版

対象番組：NEWS23(TBS)

対象期間：5/6～5/10

・ 5/6(月)

北朝鮮の飛翔体発射、米中協議などについて報じられました。これら例示したトピックについて放送法第四条の見地から検証を行いましたところ、放送法上は特に問題は見られませんでした。

・ 5/7(火)

東京株式市場と米中貿易摩擦、日本と北朝鮮、アメリカ元検事 500 人が声明、タイガーウッズ選手に勲章授与、クールビズと環境省などについて報じられました。これら例示したトピックについて放送法第四条の見地から検証を行いましたところ、日本と北朝鮮については放送法に照らして不十分な箇所が見られました。

・ 5/8(水)

アメリカの国際関係、安倍総理発言などについて報じられました。これら例示したトピックについて放送法第四条の見地から検証を行いましたところ、放送法上は特に問題は見られませんでした。なお、アメリカの国際関係については検証者の所感を記しました。

・ 5/9(木)

北朝鮮が飛翔体発射、米中貿易交渉、1年3か月ぶりの憲法審、経産省官僚が覚せい剤、イランに新たな経済制裁などについて報じられました。これら例示したトピックについて放送法第四条の見地から検証を行いましたところ、米中貿易交渉および1年3ヶ月ぶりの憲法審では放送法違反の疑いが見られました。

・ 5/10(金)

米中貿易戦争による日本企業への影響、北朝鮮核ミサイル発射問題などについて報じられました。これら例示したトピックについて放送法第四条の見地から検証を行いましたところ、放送法上は特に問題は見られませんでした。

※検証の詳細は次ページ以降の「詳細版」に掲載されている各放送日の報告書をご覧ください

放送法遵守を求める視聴者の会

NEWS23 週刊報告 詳細版

テレビ局：TBS	番組名：NEWS23	放送日：2019年5月6日
<p>出演者：星浩、雨宮塔子、駒田健吾、宇内梨沙 神戸金史(RTB 東京報道制作部記者)</p>		
<p>検証テーマ：北朝鮮の飛翔体発射、米中協議</p>		
<p>報道トピック一覧</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【速報】 イギリス王室のヘンリー王子とメガン妃の第一子誕生 9 ・ 10 連休ついに最終日も史上最長に想定外が続出 ・ 北朝鮮の飛翔体発射 ・ やまゆり園事件被告との対話 ・ 米中協議 ・ ロシア旅客機が炎上 ・ 高萩市で私立中学校の女子生徒が自殺 ・ スポーツ報道 ・ 23Today 10 連休が最終日 北朝鮮の飛翔体発射 宇都宮市でパトカーから逃走し事故 千葉県市川市で 66 歳の妻の首を絞め殺害か 東京品川区でゴミ収集車に轢かれ高齢男性が死亡 		
<p>放送法第 4 条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 北朝鮮の飛翔体発射：結論→特に問題なし <p>北朝鮮が 4 日に東部の元山付近から複数の飛翔体を発射し最大 200 キロ程度とんだと見られていて、これらの飛翔体はミサイルとの疑いがあるとのことが伝えられた。このトピックに当てられた時間は 272 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 米中協議：結論→特に問題なし <p>アメリカのトランプ大統領が中国からの輸入品に対して更に関税を引き上げると表明したこと、これを受けてアジア市場の株価は軒並み下落、連休明けの日本市場への影響も懸念されているとのことが伝えられた。このトピックに当てられた時間は 266 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。</p>		
<p>最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨</p> <p>特になし</p>		

NEWS23 週刊報告 詳細版

検証者所感

特になし

NEWS23 週刊報告 詳細版

テレビ局：TBS	番組名：NEWS23	放送日：2019年5月7日
<p>出演者：星浩、雨宮塔子、駒田健吾、宇内梨沙 磯崎敦仁(慶應義塾大学准教授、専門は北朝鮮政治)</p>		
<p>検証テーマ：東京株式市場と米中貿易摩擦、日本と北朝鮮、アメリカ元検事 500 人が声明 タイガーウッズ選手に勲章授与、クールビズと環境省</p>		
<p>報道トピック一覧</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「令和」はじめての平日 ・東京株式市場と米中貿易摩擦 ・日本と北朝鮮 ・20 歳年下夫殺害事件初公判 ・増え続ける「特定妊婦」の実情 ・新天皇の執務映像初公開 ・アメリカ元検事 500 人が声明 ・タイガーウッズ選手に勲章授与 ・ヘンリー王子に男児誕生 ・「太鼓の達人」の盗難事件で高校生 3 人を書類送検へ ・スポーツ報道 ・23Today <ul style="list-style-type: none"> 「令和」はじめての平日 東京株式市場と米中貿易摩擦 クールビズと環境省 宇都宮市でパトカーから逃走で 3 人死傷 GW の交通機関利用者数 ・天気予報 		
<p>放送法第 4 条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京株式市場と米中貿易摩擦：結論→特に問題なし 令和初の取引となった東京株式市場がおよそ一ヶ月ぶりの安値水準で取引を終えたこと、その背景にはアメリカと中国の貿易摩擦があるとのことが伝えられた。 スタジオでは以下に朱記したやり取りが繰り返された。 <p>駒田健吾「では先ほど開いたばかりのニューヨーク株式市場を見ていきましょう 300 ドルあまり下がっていますが、星さんあの、この関税引き上げを控えたギリギリのこのタイミングでの米中協議、動きはあるのでしょうか。」</p> <p>星浩「そうですね、どうもぎりぎりになって中国側がその技術移転の問題があるんですけども、それでかなり強気に出てきたということでトランプ大統領が怒って関税を引き上げるぞということになったんですね、中国側もその脅しに屈したというわけには行きませんので中々譲歩しづらい状況で 9 日からの協議でよほどの隠し玉でもない限りですね、これ一旦は 10%から 25%に関税がドンと上がるという可能性が強くなってきているようです</p>		

ね。」

このトピックに当てられた時間は 222 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・日本と北朝鮮：結論→やや不十分

雨宮キャスターの「日朝首脳会談実現に結びつくのでしょうか。」というコメントに駒田キャスターが「安倍総理が北朝鮮の金正恩委員長との会談について、条件をつけずに臨むとの考えを昨日突然表明しました。これまでの方針を転換したように見える今回の発言、その背景には何があるのでしょうか。」と応じる形で導入がされ以下に朱記したように VTR が取り上げられていた。

"安倍総理「拉致問題を解決をするためにですね、あらゆるチャンスを逃さない、私自身が金正恩委員長と向き合わなければならない、条件をつけずに向き合わなければならないという考えであります。」

ナレ「昨夜、トランプ大統領との電話会談のあと、無条件で日朝首脳会談にのぞく考えを表明した安倍総理、」 "

"ナレ「しかし、これまで安倍総理は。」

安倍総理（去年 9 月）「金正恩委員長と直接向き合う用意があります。実施する以上拉致問題の解決に資する会談にしなければならないと決意しています。」

ナレ「北朝鮮との会談に臨むに当たり拉致問題の解決に資する会談にしなければならない、などと前提条件をつけていました。」 "

"ナレ「今回の突然の方針展開とも言える総理の発言について菅官房長官は。」

菅義偉官房長官「自分自身が金正恩委員長と直接向き合うとの決意を従来から述べておりました、条件をつけずに会談実現を目指すというのはそのことをより明確な形で述べたものであります。」 "

"ナレ「拉致、核、ミサイルの包括的解決を目指す従来の方針に変化はない、と強調しました。また、河野外務大臣は。」

河野太郎外相「拉致問題の、なにか解決について外口ではないということで当然に出口は核、ミサイル、拉致問題の包括的解決ということが出口になります。」

ナレ「こう述べた上で首脳レベルでの会談をやらなければ何も解決しない、としました。」 "

ナレ「今回の総理発言についてある与党幹部は、『拉致被害者家族の高齢化を念頭に早期の解決を目指す思惑があるのではないかと』としています。」

"ナレ「一方、野党側は政府が方針転換をしたのかどうか、国会の場で安倍総理に説明を求めたいとしています。」

福山哲郎（立憲民主党幹事長）「どういふ変化があったのか、もしくは拉致問題については条件とはしないのか。予算委員会の場でご絶命をいただきたい。」 "

ナレ「北朝鮮を巡る日本政府の態度の変化は先月公表された 2019 年版の外交青書にも現れています。去年の青書にはあった圧力を最大限にまで高めていくという表現が削除されたのです。果たして今後日朝首脳会談は実現するのでしょうか。」

また、VTR をうけてスタジオでは以下に朱記したやり取りが繰り返されられた。

"雨宮塔子「スタジオには北朝鮮政治に詳しい慶応大学の磯崎准教授にお越しいただいております。よろしくおねがいします。」

磯崎敦仁（慶應義塾大学）「よろしくおねがいたします。」

雨宮塔子「安倍総理は条件なしでと踏み込んだ表現で会談を呼びかけた形ですが、果たして北朝鮮は応じるのでしょうか。」

磯崎敦仁「可能性は0ではない、可能性はあるはあるかもしれないですけどもしかし非常に厳しい道程にはなると思いますね。と申しますのも日本社会日本政府は北朝鮮に強い不信感を持っていますけれども同様に北朝鮮も北朝鮮政府は安倍首相に対する不信感、非常に強いんですね、今回も首脳会談実現したとしてもですね、今回のアピールというものが日本国内の政治利用に使われてしまうのではないかと、そういう懸念は当然北朝鮮側にある用に思いますね。」

駒田健吾「2002年の頃とは違うわけですか。」

磯崎敦仁「そうですね2002年の小泉首相の最初の日朝首脳会談のときはブッシュ、金正日、北朝鮮、米朝関係非常に悪かったですから橋渡し役としての日本に期待があったわけですね、でも今は米朝間直接やり取りができてパイプもあるわけですから日本との交渉を急ぐ必要はないというのが今の北朝鮮のスタンスなんだと思います。」

駒田健吾「実現が難しいかもしれない、その中で今回、この総理の方針転換とも取れる呼びかけをしたのはなぜなのでしょうね。」

星浩「私はね、安倍総理には3つ理由があると思いますね。一つはですねやっぱり米朝が動き始めたので日本がちょっと蚊帳の外言われましたのでこれは日本も動かなきゃいかんという判断がまずある、ところがそのハノイ会談が決裂したので北朝鮮はこの日本にそのよってくるのじゃないかと、そういう期待があって、これは好機だなというのが2つ目、それから3つ目はなんとと言っても夏の参議院選挙がありますからね、そこに向けてこう外交的成果を出さなくちゃいけないと、その3つの要因があると思いますね。」

"雨宮塔子「それから磯崎さん先ほど可能性は0ではない、と、非常に難しいかもしれませんが、可能性が僅かでもあるとしたら、その日朝首脳会談、実現するとしたらどんな形になるのでしょうか。」

磯崎敦仁「北朝鮮は15年ぶりの日朝首脳会談のなるわけですから、やってる感ではだめですよ。民主主義体制ですとね、うまくいかないことを相手のせいにして実際物事が進んでいないのに、やってますよっていう意思表示、それで国民からの支持を得ることができるんですが、北朝鮮は実利を求めてきますよ、日本と15年ぶりにやるからには日本から得るものがないといけません。しかも、こう1回の交渉で終わるのではなくてその交渉の意思というのが日本側に明確にあるのかどうか、というのを見極めてくるように思いますね。」

駒田健吾「条件なしでと総理自らアピールされたわけなんですけれどもそもそもお二方に伺いたいのは水面下での北朝鮮とのパイプというのはあるのでしょうか。」

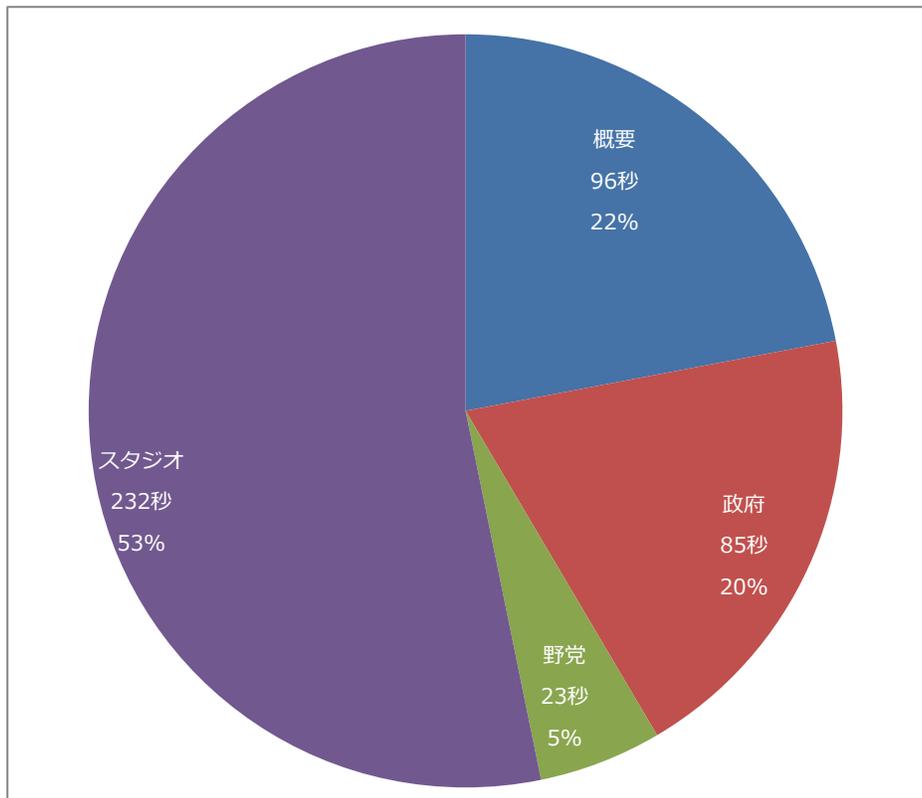
磯崎敦仁「昨年から水面下接触の報道が出てきていますから、当然パイプはあるわけですが、少なくともハノイ会談、2月のハノイ会談の前まではそれは非常に薄いパイプと言うか細いパイプだったように思います、果たして金正恩委員長までつながっているパイプなのかどうかというのはまだわからないですし、どうも日本政府と申しますか安倍政権側としてはトランプ大統領頼みでパイプを新たに作ろうとかそういった努力をしていたように見受けられますけれども。」

星浩「かつてはね、その対話と圧力ということで日本側も圧力をかける一方、その田中均さんのように対話のパイプを維持していたわけなんですけれども、安倍政権になってどっちかって言うと圧力一辺倒だったものですから日本政府内のパイプっていうのもずっと細ってきたというのが現実なんです、日本の場合は拉致問題という非常に

大きな問題を抱えているわけですから、ぜひともですね、これは北朝鮮と向き合って自体の打開に動いてもらいたいですね。」

雨宮塔子「磯崎さんありがとうございました。」

このトピックに当てられた時間は 436 秒で、このトピックについて概要の説明、政府見解の紹介、野党の意見の紹介、スタジオでのやり取りに焦点が当てられていたがそれぞれの時間配分及び比率は以下の通りであった。



今回の報道ではスタジオでのやり取りが時間の大部分を占めていて政府見解の紹介の時間は少なかったものの、それと比較しても野党の意見の紹介に当てた時間が手薄となっており、また取り上げられた野党も立憲民主党だけで他の野党の意見は取り上げられていなかった。これは放送法第四条一項二号「政治的に公平であること」や同四号「意見が対立している問題については、できるだけ多くの角度から論点を明らかにすること」に照らすとやや不十分であったと言えるだろう。

・アメリカ元検事 500 人が声明

500 人を超えるアメリカの元連邦検事らが 6 日、トランプ大統領がロシア疑惑の捜査を阻もうとした司法妨害の疑いに関し、現職の大統領でなければ複数の重い罪で訴追されたいららと指摘する声明を発表したことが伝えられた。このトピックに当てられた時間は 47 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・タイガーウッズ選手に勲章授与：結論→特に問題なし

先月行われた男子ゴルフのマスターズで復活優勝を飾ったタイガーウッズ選手に大統領自由勲章が授与されたこと、大統領自由勲章とはアメリカ政府が文民に与えるもっとも名誉ある勲章であることが伝えられた。このト

NEWS23 週刊報告 詳細版

ピックに当てられた時間は 44 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・クールビズと環境省：結論→特に問題なし

省エネルギーのためのクールビズが今日スタートしたとのこと、環境省は冷房の設定温度を 28 度に抑え涼しい服装での勤務などを呼びかけているとことが伝えられた。このトピックに当てられた時間は 25 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨

特になし

検証者所感

特になし

NEWS23 週刊報告 詳細版

テレビ局：TBS	番組名：NEWS23	放送日：2019年5月8日
出演者：星浩、雨宮塔子、駒田健吾、宇内梨沙		
検証テーマ：アメリカの国際関係、安倍総理発言		
<p>報道トピック一覧</p> <ul style="list-style-type: none"> ・滋賀県大津市で交通事故 ・アメリカの国際関係 ・20歳年下夫殺害事件の裁判 ・飲食店の新しい「売り方」「働き方」 ・イギリス、ヘンリー王子夫妻の第一子お披露目 ・トヨタが国内企業初の売上高 30 兆円超え ・安倍総理発言 ・天皇皇后両陛下が即位後初の宮中祭祀 ・スポーツ報道 ・23Today <p>滋賀県大津市で交通事故 アメリカの国際関係 JAL のシステム障害 輸入品販売会社ラポールのオーナーらを融資金詐取の疑いで逮捕 アメリカのコロラド州の学校で銃乱射事件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・修復作業が進むフェルメールの絵画 ・天気予報 		
<p>放送法第 4 条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アメリカの国際関係：結論→特に問題なし <p>駒田キャスターのスタジオでの「今、アメリカが 2 つの大国との間で緊張を抱えています、まずこちら、中国との関係です。巨額の貿易赤字をなんとかしようと交渉を続けていると思ったらトランプ大統領が突然、中国からの輸入品への関税をさらに引き上げると表明しました。これによって貿易摩擦が再燃しそうな様相となっています、これを承けましてアメリカのニューヨークで 7 日、株価が下落しました。そして、こちら、日本でもですね、昨日に続きまして、株価が下落したんですね。そしてもう一つ緊張が高まっているのが中東の国、このイランとの関係なんですね。核合意から一方的に離脱したアメリカに対抗する形でイランのロウハニ大統領がこのように表明しました。核開発を一部再開させる可能性を明らかにしたのです。一方のアメリカですがポンペオ国務長官がイランのお隣、このイラクを予告なしに電撃訪問したのです、これはイランへの牽制と見られていて両国の間に緊張関係が高まっているのです。」というコメントを導入に以下に朱記した VTR が取り上げられた。</p> <p>"後藤大希（報告）「今日の東京株式市場では日経平均株価が大きく下落しました。」</p> <p>ナレ「今日の終値は 321 円安、2 日連続の値下げとなりおよそ一ヶ月ぶりの安値を付けました。投資家からは戸</p>		

惑いの方が上がります。」 "

"投資家 A 「もう少し落ち着いてほしいですね、はい、こうね、上下するのはちっと辛い。」

投資家 B 「国家のやっぱりエゴというのかな、俺が俺がというのが出ているからこういうことになったんじゃないですか。」 "

"ナレ 「また上海やヨーロッパの株価も下がっていて世界同時株安の様相となっています、発端となったのはトランプ大統領の今月いつかのつぶやき。」

トランプ大統領 (Twitter) 「中国との貿易交渉は続いているがおそろすぎる、だめだ。」

ナレ 「中国からの輸入品に課している追加関税を 10% から 25% に引き上げると、突然表明したのです。その理由についてアメリカ側は中国の態度に問題があると主張。交渉にあたっているライトハイザー通商代表は。」 "

"ライトハイザー通商代表 「先週末の交渉で中国は約束を破った。」

ナレ 「これまで米中貿易交渉はトランプ氏が巨額の対中貿易赤字を問題視し中国側にアメリカの知的財産権を守ること、アメリカ企業の技術移転を強要しないことなどを求めて譲歩を迫ってきました、ところが先週の交渉後、中国側が譲歩する姿勢を後退させて約束を破ったというのです、これが事実とすればなぜ中国はここに来て約束を破ったのでしょうか。専門家は習近平体制の中でこれ以上の譲歩は国益を損なうとの違憲が強くなってきた可能性を指摘します。」 "

津上俊哉 (日本国際問題研究所客員研究員) 「感情論とかね、気分が悪いというそういうふうな次元の問題ではなくて、やっぱりもう、それを本当にやったら大変な利益を犠牲にってしまうみたいなね、かなり切実な事情があつてのことなんだろうという気がしますけどね。この一年間、アメリカから制裁を受けたけれども影響は大したことはないし、それで損をしているのはアメリカの消費者だし、足元の中国経済を見ても脅しにビクビクする必要はない、みたいな。」

"ナレ 「アメリカは追加関税を現地時間の 10 日午前 0 時 1 分に引き上げるとしています、これに対する中国側の出方についてアメリカのブルームバーグ通信は関係筋の話としてこう伝えています。」

ブルームバーグ通信 「中国はアメリカが実行した一分後に報復関税を課してくるだろう。」

ナレ 「報復の応酬は激化してしまうのでしょうか。中国は 10 日の期限を前に交渉役の劉鶴副首相が訪米し 9 日からアメリカと交渉するとしています。」 "

中国外務省報道官 「意見の食い違いがあるのは当たり前だ。中国は矛盾を回避しない、誠意を持って交渉を継続する。」

ナレ 「しかし期限まであと一日しかなく妥協点を探るのは困難との見方も広がっています。」

ナレ 「トランプ大統領の言動をきっかけに、中国だけでなく、イランとの緊張も高まっています。」

ロウハニ大統領 「我々は一度たりとも暴君に屈してこなかったし、これからもないだろう。どんな侵略者にも断固として立ち向かっていく、これがイランの文化だ」

ナレ 「ロウハニ大統領は日本時間今日午後、イラン核合意で定められた一部の義務に従わないことを表明しました。具体的には制限を超える量の濃縮ウランの貯蔵を今日から開始、その上で核合意の署名国らに経済分野での支援を求め、60 日以内に交渉が成立しなければ核兵器の材料となるより高濃度のウラン生産を再開するとしたのです。」

"ナレ 「発端になったのはちょうど 1 年前のトランプ大統領のこの発言。」

トランプ大統領「米国はイラン核合意から離脱することを表明する。」 "

ナレ「トランプ政権は実効性がないとして一方的に核合意を離脱し再び経済制裁を加えるなどイランへの圧力を強めたのです。こうした中、軍事的挑発と見られる動きも。アメリカ CNN はいらんが短距離弾道ミサイルをイランがペルシャ湾上の艦船に移動させた可能性がある」と報じました。一方、アメリカのポンペオ国務長官は7日、予告なしにイラクを訪問、首相らと会談し、イランによる脅威を説明、協力を求めました。」

ポンペオ国務長官「抑止のためにできることは全てした。」

ナレ「更にアメリカ排卵への警戒措置として空母打撃群や爆撃機を派遣しています。」

VTR を受けてスタジオでは以下に朱記したやり取りが繰り返された。

雨宮塔子「中国、イランの問題、ともに事の発端はトランプ氏ですが、そのトランプ氏の支持率が最新の世論調査では過去最高の46%に達しているんですね。」

星浩「そうですね驚きですけども、アメリカの国内では反イラン感情っていうのは強いんですね、それから中国からの製品輸出があつてみんなその工場閉鎖とかひどい目にあつてる街もありますからね、反中国感情も強く、まあそれがこの数字に結びついているんだと思いますね。」

駒田健吾「米中の貿易交渉ですけども双方とも一歩も引かないということでこのままでは報復合戦につながってくる恐れがありますよね。」

星浩「アメリカは最近その中国に対して貿易の額が、摩擦、貿易の黒字が多いと言うだけではなくてですね、その中国はその国家が経済活動に口出しをしているという構造問題に口出ししているんですね。ですから中国からするとその構造問題どんどんアメリカの言いなりになってくるというのは到底受け入れられないっていうことで簡単には譲歩できない状況で10日の締切に向けてね、この締め切りが来ちゃって25%にどんと関税が上がるのか、10日の締切をちょっと伸ばして再交渉しましょうかというギリギリの局面にいま来ていると思いますね。」

このトピックに当てられた時間は523秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・安倍総理発言：結論→特に問題なし

安倍総理が前提条件をつけずに日朝首脳会談の実現を目指す考えを示したことについて野党だけではなく身内である与党内からも説明を求める声が上がっていき、谷垣グループ代表世話人の逢沢一郎議員の「まあ外交のことでもありますので、もちろん、全て国民に説明せよ、という訳にはいかない、しかしなにがしかの説明責任を果たす義務というのも総理には同時にあるわけがございます。」というコメントが取り上げられていた。

このトピックに当てられた時間は42秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨

特になし

検証者所感

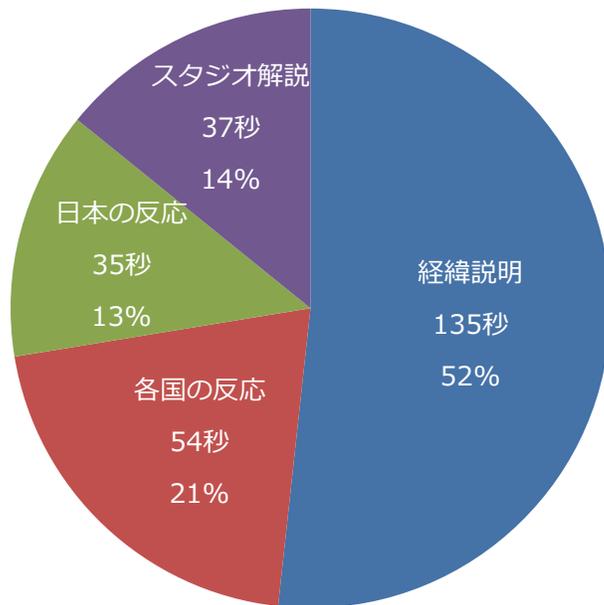
スタジオで星キャスターが星浩「そうですね驚きですけども、アメリカの国内では反イラン感情っていうのは強いんですね、それから中国からの製品輸出があつてみんなその工場閉鎖とかひどい目にあつてる街もありま

NEWS23 週刊報告 詳細版

すからね、反中国感情も強く、まあそれがこの数字に結びついているんだと思いますね。」とコメントしており、なるほど、中国に対する反感がアメリカで強まる理由については一定の理解ができたものの、反イラン感情についてはアメリカ国内で反イラン感情が強いということは分かったものの、なぜそうした感情が強まっているのかという理由に触れられていなかったのが残念だった。

NEWS23 週刊報告 詳細版

テレビ局：TBS	番組名：NEWS23	放送：2018年5月9日
出演者：【キャスター】駒田健吾、雨宮塔子、星浩、宇内梨沙		
検証テーマ：北朝鮮が飛翔体発射、米中貿易交渉、1年3か月ぶりの憲法審、経産省官僚が覚せい剤 イランに新たな経済制裁		
<p>報道トピック一覧</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北朝鮮が飛翔体発射 ・米中貿易交渉 ・大津園児死亡事故 ・五輪観戦チケット ・ふるさと納税 ・「ウーバー」上場 ・町中にクマ ・1年3か月ぶりの憲法審 ・20歳年下の夫殺害事件 ・次世代新幹線公開 ・スポーツ報道 ・23Today <ul style="list-style-type: none"> ・北朝鮮飛翔体発射 ・米中貿易交渉 ・経産省官僚が覚せい剤 ・「トヨタ」「パナ」住宅事業統合 ・イランに新たな経済制裁 ・天気予報 		
<p>放送法第4条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北朝鮮が飛翔体発射→結論：放送法第四条の見地から問題なし。 <p>今回は北朝鮮が2発の飛翔体を発射したことが伝えられた。飛翔体は韓国の発表によると、短距離ミサイルとされ、その後各国の反応と日本の反応が伝えられた。今トピックに充てられた報道時間は261秒で、経緯説明・各国の反応・日本の反応・スタジオ解説に焦点が当てられる内容であった。それぞれの時間配分は以下の通り。</p>		



報道の内容は以下の通り。

雨宮「北朝鮮が今日、夕方また飛翔体を発射しました。」

駒田「韓国軍の合同参謀本部は発射されたのは2発で、短距離ミサイルとみられると発表しています。」

ナレーター「その狙いはどこにあるのでしょうか。複数の飛翔体が発射された。韓国軍の合同参謀本部によりますと、北朝鮮は北西部のピョンヤン北道クソン付近から、午後4時29分と午後4時49分に、それぞれ一発ずつ合わせて2発の飛翔体を発射しました。クソンは2017年、ICBM、大陸間弾道ミサイルの発射が行われた場所でもあります。短距離ミサイルと推定される。今回、飛翔体は東の方向に発射されたと見られ、一発目がおおよそ420キロ、2発目がおおよそ470キロ飛行したということです。北朝鮮は今月4日にも東部の半島一帯から複数の飛翔体を発射したばかりです。韓国のムン・ジェイン大統領は今日生出演したテレビで。」

ムン大統領「(今日追加の発射があるとは予測できませんでしたよね?) はい。これが最後なのかも判断することは難しい。このような態度は対話と交渉の局面を困難にする。」

ナレーター「また、ソウルには昨日からアメリカのビーガン北朝鮮担当特別代表が滞在していて、このタイミングでの飛翔体発射はアメリカへの揺さぶり、けん制とも言えそうです。日本政府は。」

岩屋防衛相「我が国の領域や、排他的経済水域への弾道ミサイルの飛来は確認されておりません。」

ナレーター「岩屋防衛大臣は現時点で日本の安全保障に直ちに影響を及ぼす事態ではないと強調しました。そのうえで、アメリカや韓国などと連携して、情報の収集、分析、警戒・監視に万全を期したいと述べました。一方、国会では前提条件なしで金正恩党委員長と向き合うとした安倍総理の発言について野党が質しました。」

清水貴之参議(日本維新の会)「これは総理としての考え方の変換なのか。」

安倍総理「相互不信の殻を破り、次は私自身が金正恩党委員長と向き合うとの決意を私は従来から述べてきた。条件を付けずに会談実現を目指すとは、そのことを明確なかたちで述べたもの。」

ナレーター「安倍総理周辺は今日の飛翔体発射を受けても、金党委員長と前提条件なしに向き合うという姿勢に変わりはないという認識を示しています。こうした中、菅官房長官は今日、アメリカに出発。ペンス副大統領、ポンペオ国務長官らと会い、拉致問題などについて話し合う予定だということです。」

雨宮「飛翔体発射について日本は、あくまで冷静な受け止めですね。」

星「まあ、前提条件なしで金党委員長と会談したいと言っている手前、あまり強く出られないといったところでしょうね。」

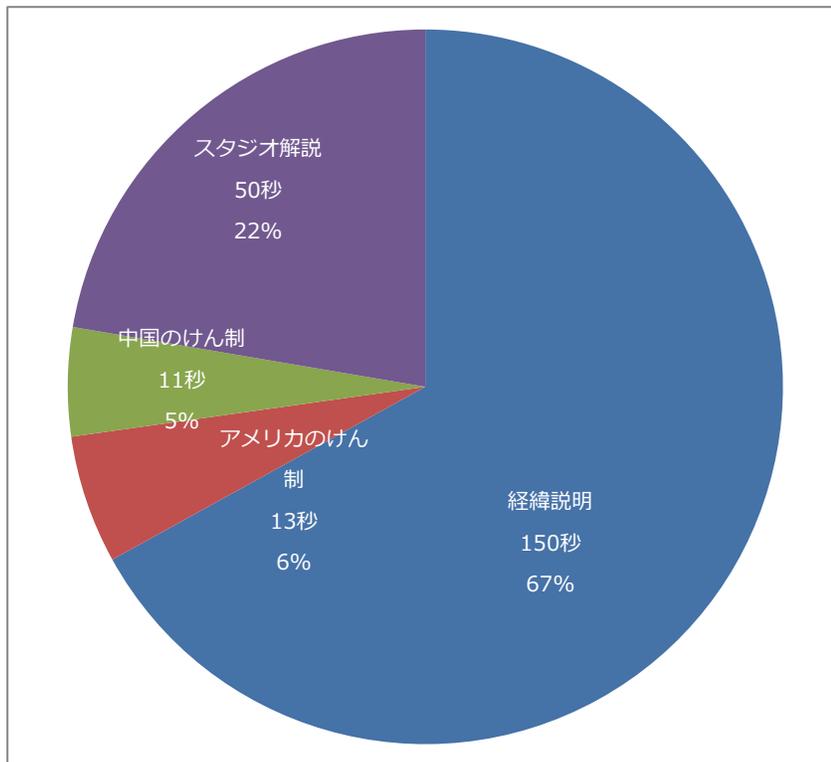
雨宮「飛翔体ですが、短距離ミサイルとも言われていますね。」

星「まあ、そうですね。おそらくその可能性高いでしょう。ただ、この種のミサイルはアメリカ本土には届かないですよ。それから今、北朝鮮と韓国は蜜月状態ですから、安全保障上一番脅威が大きいのはある意味で日本ですよ。ですから、日本はこういう問題では毅然と対応する必要があると思います。」

今回は放送法第四条の見地から問題は見られなかった。

- ・米中貿易交渉→結論：放送法第四条第一項三号「報道は事実を曲げないですること」に違反。

今回は米中の閣僚級貿易交渉が間近に迫る中、両国でけん制が行われている状況が伝えられた。今トピックに充てられた報道時間は224秒で、経緯説明・アメリカのけん制・中国のけん制・スタジオ解説に焦点が当てられる内容であった。それぞれの時間配分は以下の通り。



報道の内容は以下の通り。

雨宮「アメリカと中国による閣僚級の貿易交渉があと数時間後に迫っています。」

駒田「交渉前にトランプ大統領は中国を改めて非難。一方の中国も関税の引き上げの場合、対抗措置をとる構えを見せるなど双方の駆け引きが一層激しさを増しています。」

レポーター「劉鶴副首相です。劉鶴副首相が今、北京空港に到着しました。交渉はまとまるのでしょうか。これからワシントン行きの飛行機に乗り込みます。」

ナレーター「ワシントンで九日から始まる閣僚級の貿易交渉に出席するため、今日、北京を出発した劉副首相。対するアメリカでは。」

トランプ大統領「中国が交渉を台無しにした。もし、合意できなければ中国は関税を払うことになる。」

ナレーター「支持者集会で中国への不満を露わにしたトランプ大統領。交渉を前に中国をけん制しました。」

トランプ「取引が成立しなくても年間 1000 億ドルが入ってくるから悪いことはない。」

ナレーター「アメリカは 8 日、中国からの輸入品に課している 10%の追加関税率を現地時間の 10 日、午前 0 時 1 分に 25%に引き上げると公表しています。さらにトランプ氏は、中国側が米国から技術や雇用を奪うことをやめない限り関税率は引き上げる、として妥協はしない考えを強調しました。これに対して中国側は昨夜遅く、『貿易摩擦のエスカレートは両国と世界の人民の利益に一致しない』との談話を発表しましたが。」

報道官「アメリカ側が関税引き上げを実施したら、中国側はやむを得ず対抗措置を取らなければならない。」

ナレーター「トランプ政権が追加関税率を 25%に引き上げた場合、報復関税を発動させる構えを見せました。対立が激化するアメリカと中国。今日の上海株式市場の代表的な指数は 1.5%近く下落。日経平均株価も連休明け、3 日連続の下落となりました。市場関係者は交渉前に様子見ムードだが、先行き不透明感が世界市場を覆っているとしています。トランプ政権が関税を引き上げるとする 10 日まで残りわずかな期間で着地点を見出すことができるのか、交渉の行方が注目されます。」

雨宮「関税引き上げまであと 13 時間余りなんですけど、ここ 3 日間で日本の株価も下落していますし、このまま私たちの暮らしにまで影響が出てくるのでしょうか。」

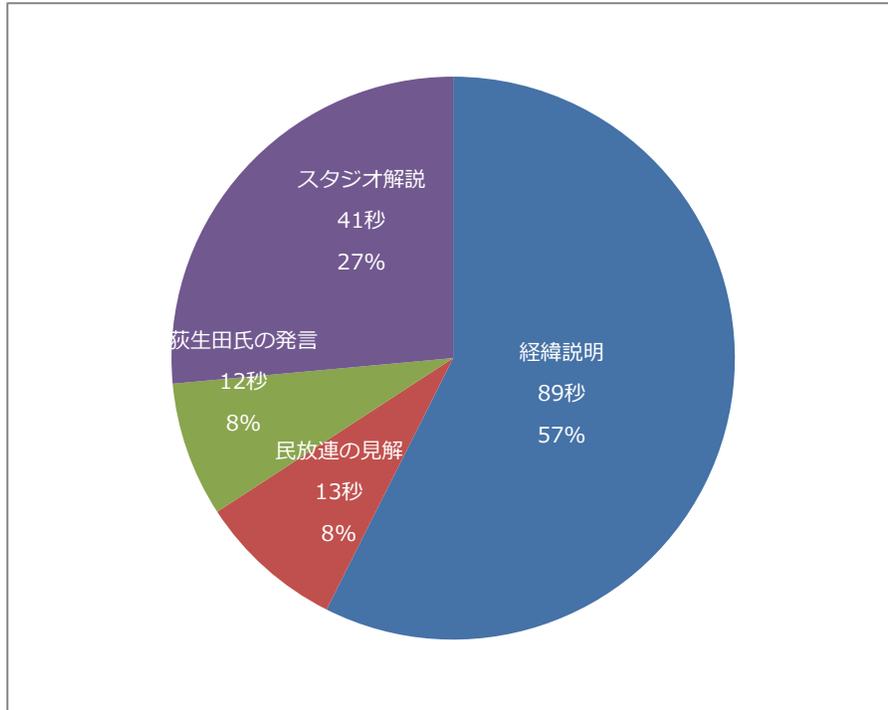
星「そうですね。米中がどんどん関税を上げていけば、両国の景気も冷え込みますから日本の輸出にも打撃が出てきますよね。もう一つは今回アメリカが中国に対する貿易黒字に注文をつけているわけですね。その理屈で日本に対しても貿易黒字を減らせと、例えば牛肉をもっと買いなさいとか、日本のアメリカに対する自動車の輸出をもうちょっと抑えろとか、そういう理屈でトランプさんが攻めてくる可能性がありますよね。ですから、ここは関税の引き上げで貿易問題というのは解決できないと安倍総理からトランプ大統領に基本的には論ず必要があると思いますね。」

報道の時間配分を見ると比較的公平なものであるといえる。

しかし、スタジオ解説において星キャスターの「そうですね。米中がどんどん関税を上げていけば、両国の景気も冷え込みますから日本の輸出にも打撃が出てきますよね。もう一つは今回アメリカが中国に対する貿易黒字に注文をつけているわけですね。その理屈で日本に対しても貿易黒字を減らせと、例えば牛肉をもっと買いなさいとか、日本のアメリカに対する自動車の輸出をもうちょっと抑えろとか、そういう理屈でトランプさんが攻めてくる可能性がありますよね。ですから、ここは関税の引き上げで貿易問題というのは解決できないと安倍総理からトランプ大統領に基本的には論ず必要があると思いますね。」という発言はトランプ大統領の今回の政策が日本にとっても悪いものであるという印象を与える。これは明確な印象操作であり、放送法第四条第一項三号「報道は事実を曲げないですること」に違反している。

・1 年 3 か月ぶりの憲法審→結論：放送法第四条の複数の項目に抵触。

今回は国会で1年3か月ぶりの憲法審査会が開かれたことが伝えられた。憲法改正が発議された場合のCMに対する規制の有無が議論されたことと、萩生田氏の発言が物議を呼んだことなどが伝えられた。今トピックに充てられた報道時間は155秒で、経緯説明・民放連の見解・萩生田氏の発言・スタジオ解説に焦点があてられる内容であった。それぞれの時間配分は以下の通り。



報道の内容は以下の通り。

宇内「次です。国会でおよそ1年3か月ぶりに憲法審査会での実質審議が行われました。」

ナレーター「今日開かれた憲法審査会では民放連、日本民間放送連盟の代表者が出席。憲法改正の賛否を問う国民投票時のTVCM規制について意見を述べました。」

永原伸専務理事（民放連）「放送事業者の表現の自由に、法令で規制をかける、強化するという動きには常に望ましくない、反対であるというのが私どもの一貫した立場です。」

ナレーター「民放連はCM量の自主規制はできないとの立場を明確にし、法規制にも反対しました。国民投票法では投票14日前から賛否を呼びかけるCMを禁じていますが、それ以前のCMについては回数などに規制はありません。野党側は資金力の差が投票行動に影響を及ぼすおそれがあるなどとしてCM量に規制を求めました。自民党はこうした議論を呼び水として改憲議論を加速させたい狙いがあります。しかし、先月、安倍総理の側近からこんな発言が。」

萩生田幹事長代行「ワイルドな憲法審査を自民党は進めていかなければならない。ここまで丁寧に我慢してきた。令和になったらキャンペーンを張るしかない。」

ナレーター「この発言は野党側の反発を招き、謝罪に追い込まれました。また、連立を組む公明党は憲法改正に慎重な姿勢を示していて、今の国会で憲法改正の実質的な議論は行われぬ見通しです。」

雨宮「早期の憲法改正を目指す安倍総理としては戦略の見直しを迫られそうですね。」

星「そうですね。まあ、この萩生田さんのワイルドな憲法審査という発言が象徴的なんですけれども、安倍総理

とその周辺が憲法改正に前のめりな発言をすると野党が反発して、公明党が慎重になると。その繰り返しだったわけですね。憲法論議というのはどちらかというと急がば回れという感じで与野党が合意してすすめていくというのが本来のあるべき姿なんですね。安倍総理がそういう急がば回れという方法に軌道修正しない限り、おそらく次の国会でも憲法論議は進まないと思います。」

時間配分は経緯説明を除けば比較的公平であると言えるが、ここでも星キャスターの発言に問題が見られた。

「そうですね。まあ、この萩生田さんのワイルドな憲法審査という発言が象徴的なんですけれども、安倍総理とその周辺が憲法改正に前のめりな発言をすると野党が反発して、公明党が慎重になると。その繰り返しだったわけですね。憲法論議というのはどちらかというと急がば回れという感じで与野党が合意してすすめていくというのが本来のあるべき姿なんですね。安倍総理がそういう急がば回れという方法に軌道修正しない限り、おそらく次の国会でも憲法論議は進まないと思います。」星キャスターは上記のように発言しているが、憲法審査会の開会に関して、自民党は長期間野党に対して要請を続けてきた。それに対して野党が応じないということの繰り返しであったことが星キャスターの発言からは見て取れない。これは放送法第四条第一項四号「意見が対立している問題については、できるだけ多くの角度から論点を明らかにすること」に違反している。

また、「憲法論議は与野党が合意して進めるのがあるべき姿」と述べているが、与野党が合意して憲法論議をしなければならないという決まりはどこにも存在していない。事実として各党には憲法調査部かそれに類する集団が存在しており、論議自体は与野党各々で進められて良いものである。したがって、この発言は事実を正確に伝える内容とは言えない。したがって、放送法第四条第一項三号「報道は事実を曲げないですること」に違反している。

・経産省官僚が覚せい剤→結論：放送法第四条の見地から問題なし。

今回は覚せい剤所持の疑いで逮捕された経産官僚の机から注射器が見つかり、庁舎内で覚せい剤を使用した疑いがあることが伝えられた。今トピックに充てられた報道時間は 24 秒で経緯説明のみの内容であった。

今回は放送法第四条の見地から問題は見られなかった。

・イランに新たな経済制裁→結論：放送法第四条の見地から問題なし。

今回は、アメリカがイランに対する追加の経済制裁措置をとることが伝えられた。今トピックに充てられた報道時間は 22 秒で、経緯説明が主な内容であった。

今回は放送法第四条の見地から問題は見られなかった。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨
特になし。

検証者所感
特になし。

NEWS23 週刊報告 詳細版

テレビ局：TBS	番組名：NEWS23	放送日：2019年5月10日
出演者：星浩、雨宮塔子、駒田健吾、宇内梨沙		
検証テーマ：米中貿易戦争による日本企業への影響、北朝鮮核ミサイル発射問題		
<p>報道トピック一覧</p> <ul style="list-style-type: none"> ・米中貿易交渉 2 日目開始 関税引き上げに中国側が反発 ・米国の対中追加関税により日本企業にも大きな影響 ・北朝鮮が発射した「飛翔体」は弾道ミサイル、米国が断定 ・宮崎県で震度 5 弱の地震、南海トラフ地震との関連は？ ・レオパレス 21 社長が辞任を表明、施工不良に伴う修繕費がかさみ多額の損失 ・群馬でバスが 20m 崖下に転落、乗客 14 名が重軽傷 ・親の体罰禁止を定めた法律が審議入り ・スポーツ報道 ・23Today <p>米中貿易交渉 2 日目開始 関税引き上げに中国側が反発 北朝鮮が発射した「飛翔体」は弾道ミサイル、米国が断定 去年 4 人をはね 1 人死亡させたドライバーの 90 歳女性に禁固 5 年 池袋の高齢者ドライバーによる暴走事故を受け、警視庁管内で高齢者の免許返納件数が増加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・天気予報 		
<p>放送法第 4 条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨</p> <ul style="list-style-type: none"> ・米中貿易戦争による日本企業への影響：結論→特に問題なし <p>今回の報道はトランプ大統領が発表した対中追加関税に伴う日本企業への影響についてであり、このトピックについて当てられた時間は 272 秒だった。なお、今回は対立点や論点などは特に見られなかった。</p> <p>なお、スタジオでは以下に朱記したやり取りが繰り返された。</p> <p>雨宮キャスター「日本への影響も深刻になりそうな米中貿易問題ですが、トランプ大統領はなぜ長期化すればアメリカ国内の経済にもマイナスの影響を与えるような関税の引き上げに拘るのでしょうか」</p> <p>星キャスター「トランプ大統領は、中国叩きをすることで有権者から拍手喝采、支持率が上がるということを最近体験しているわけですね。まあそのイラン叩きと共にトランプ大統領にとって格好の材料になっている。なにせ来年の 11 月には大統領選挙がありますから、その大統領選挙での再選はトランプ大統領にとって最大の課題になっているわけですね」</p> <p>駒田キャスター「6 月に G20 首脳会談が控えていますが、その場で安倍総理が米中の仲介役になるような可能性は無いのでしょうか」</p> <p>星キャスター「トランプ大統領の関税問題で世界経済が暗雲に包まれる可能性がありますよね。中国だけではなくヨーロッパのフランス、ドイツも反発しています。安倍総理はトランプ大統領との近い関係をアピールしてきたわけですから、ここは関税で貿易問題を解決するのは無理と説得するべき局面でだと思いますね」</p>		

NEWS23 週刊報告 詳細版

・北朝鮮核ミサイル発射問題：結論→特に問題なし

今回の報道は北朝鮮による弾道ミサイルの発射に対しての日本側の対応についてであり、このトピックについて当てられた時間は 330 秒だった。なお、今回は対立点や論点などは特に見られなかった。

なお、スタジオでは以下に朱記したやり取りが繰り広げられた。

雨宮キャスター「アメリカが弾道ミサイルと認定した後も日本は飛翔体と言いつけていましたよね。弾道ミサイルと認定したのはアメリカの発表から数時間経ってから」

星キャスター「弾道ミサイルだとしたら明らかに国連安保理の制裁違反。そのなかで日本側が金委員長と条件なしでの会談を希望しているというのはタイミングが悪いですよ。この短距離ミサイルはアメリカにとってではなく日本にとって脅威になるわけで、本来であれば日本が国連安保理の緊急開催を求める立場。やはり外交というのは筋を通すというのが大事で、腰の引けた対応と受け止められかねないわけで、ここはきちんと筋が通った対応に軌道に戻すことが必要でしょうね。」

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨
特になし

検証者所感
特になし